

令和4年度第2回（通算第20回）香取市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

【日 時】 令和5年2月7日（火）14：00～

【場 所】 香取市役所 4階会議室

【出席者】 鈴木委員（副会長）、齋藤委員、額川委員、栗山委員、中野委員、鏑本委員、潮田委員、鳥次委員、海寶委員、出井委員、小林委員
（欠席：圓藤委員（会長）、高橋委員、島崎委員、山本委員）

事務局： 子育て支援課、学校教育課

1.開会

事務局から資料の確認

委員 15 名中、11 名出席により会議の成立を宣言

2.副会長あいさつ

・「前回に引き続き、圓藤会長の代理を務めさせていただくがよろしくお願いします。前回は久しぶりの対面での会議だったが、ここ3年間はコロナ禍で様々な制限があった。子どもたちや保護者も本来できたであろうことができない状況があった。コロナ禍があけた後、子どもたちや親世代をしっかりと支援するよう、この子ども・子育て支援事業計画の果たす役割は重要になってくと思う。本日の会議では、委員の皆様の率直な意見をいただきたい」などの挨拶をいただく。

3.協議事項

（1）香取市子ども・子育て支援事業計画の実施状況及び進捗状況について

《事務局からの資料説明》

主要事業の実施状況、進捗状況等について説明。

- ・乳児家庭全戸訪問事業：量の見込みに対し実績が上回っているが、必要な体制は確保。
- ・一時預かり事業：市内8か所の保育所等で預かり、量の見込みに対してその受け入れは確保。
- ・放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）：

山田第2を拡大。香取水の郷を新設。今後も拡張工事等を予定。

- ・通常保育事業：R4におみがわこども園を民営化。R5に佐原グレイスこども園を開設予定。
- ・民間保育施設の整備への支援事業：

改築に伴う山倉保育園園舎解体と佐原グレイスこども園建設工事に支援。

- ・認定こども園の整備

佐原グレイスこども園が令和5年度中に完成予定。（4月に既存施設で開始。10月に移転。）

- ・児童遊園、都市公園・市民公園等の設置

地元自治会との協議により令和4年度に3園を廃止予定。

- ・佐原駅周辺地区複合公共施設整備：「みんなの賑わい交流拠点コンパス」として12/25開館
- ・産科クリニック等の誘致：協定を締結した医療法人みずたに会が建設に向けて設計中
- ・子ども食堂の推進：広報に掲載し周知を支援。関係団体の情報交換の場を提供。

《質疑応答》

(額川委員)

資料 2/13 ページ目、障害児保育事業について、現在、療育が必要なお子さんは 20 分以上かけて山田のコスモスの花へ通っていると思う。新しくできる佐原グレイスこども園に「障害児対応クラス」ができると聞いたことがあるが、療育が受けられるような施設になっていくのか？

(事務局)

佐原グレイスこども園の方で当初の計画として、在所児童を対象に専門の部屋を設置して対応していく予定であったが、現時点で広く受け入れていくという状況ではない。グレーなお子さんについては受け入れていくという方針ではあるが、障害に特化した、特に発達支援に特化した受け入れまでは至っていない。

(額川委員)

研修費を持つので資格をしっかりと取ってもらって職員として働いてもらえないかというような話をもらった方が何人かいたみたいなので、療育をやるのかと思ってお聞きした。

(事務局)

色々とグレイスこども園と話合っている中では先行きではそういったものに取り組んでいきたいということではあるが、スタッフを始めとして、開園当初から行っていくのは難しいと相談されている。また、発達支援センターのような機能をもった療育が、障害者の施策としての部分と保育の施策としての部分で、こういった形で進めていったらいいかとの相談を受けている。

(小林委員)

保育の場面で障害者というと発達に遅れがあるお子さんが考えられると思うが、障害者というと目、耳、肢体不自由等、早い段階から療育が受けられる形が望ましいと思うので、外部の事業者と連携するのも大事だが、ぜひ市で進んで色々な障害に応じた対応できるようにしてもらえると特別支援学校の者の立場としてはうれしく思う。

(事務局)

実際に今年度、保育所において医ケア児の受け入れを行ったところ。来年度についても今、入所の申し込みの作業を行っているところで、他地区でも相談がある。市としても引き続き受け入れ態勢を取り、公立の保育所においても医ケア児を受け入れるということで進めているところ。また、障害児の保育についても、精神、発達の障害だけでなく、すべてのお子様を受け入れられるような体制づくりが必要と認識しているので、必要な保育の提供に努めて参りたい。

(出井委員)

資料 2/13 ページ目、ファミリーサポートセンター事業の実績について、利用がないのはコロナのせいなのか、提供会員と依頼会員のマッチングがうまくいっていない背景があるのか。また、提供会員が一桁なのは市の中でどういう応募の努力がされてきているのか、伺いたい。

(事務局)

委員、ご指摘のとおり、令和 2 年度から利用者 0 となっている。コロナの影響で利用が抑えられているというのが一番と思う。また、公立の保育所においても、入所していないお子様でも一時預かりを受け入れられる体制を整えているのも影響しているかと思う。提供会員の募集

は広報誌やホームページ等で実施しているが、やはりコロナで希望される方の相談自体が少なく、面談まで至らないという状況がある。今後、コロナが収束していくことが見込まれる中で、事業の周知、広報を図って参りたい。

(出井委員)

一時預かり所を利用している方もいるかと思うが大事な事業と思う。使いたい人がいるのに広報がうまくいっていないのか、利用者が0というのは……。困っている人たちがすごく困る前に利用することで、少しずつストレスのはけ口になっていく。他の自治体を見ていて大事な事業と思うので、どうしたら利用が増えるのか、会員数が増えるのか、検討していただきたい。

(事務局)

監査でもこの事業については指摘されている。法的な制度だけではなく、人とのつながりの中で地域で子どもを育てていくのが大事なのではないかとのお話をいただいた。色々な制度を使えばいいというのではなく、昨日もさぬき市の子どもを叩き付けてしまったというようなニュースがあったが、そうならないような、皆で支えあうという考え方、体制も必要なのではないかと思う。コロナが明けたら皆さんにわかりやすい伝え方を検討して参りたい。

(額川委員)

ファミリーサポートセンター事業の周知についてだが、前回の会議でも話させていただいたが、検索してもまったく出てこない。まず、知らない人が多く、広報を見ない人も多いので、直接チラシを配るとか、直接伝える方法をとると皆さんに伝わると思う。

(事務局)

保護者が集まる機会をとらえてチラシを配るなど、できるだけ多くの方に利用いただけるようやり方を検討しながら進めて行きたい。

(額川委員)

資料 7/13 ページ目、産科クリニック等の誘致のところだが、令和3年度の会議の時に県立病院に小児科医が常駐していない状況について質問したところ、令和5年に開設が予定される産婦人科施設では、小児科の併設も見込まれており、また、産後ケアや病児保育についても実施していきたいとのこと、と回答いただいている。現在の状況についてお教えいただきたい。

(事務局)

産科クリニックの建設が遅れているが、事業として産後ケアや病児保育の部分について建設の中でも施設の整備が出てくるので協議しながら整備していただき、その後の事業展開でも行っていただくということで話はさせていただいている。

(額川委員)

最初の資料 2/12 ページ目で病児保育事業の対象年齢が小学3年までと書いてあるが、佐原めぐみこども園でやっている病児保育が小学1年生までで、熱が出ているとダメ、咳鼻水等の風邪症状が出ているとダメ、感染症にかかっている場合は医師の退院許可証みたいなものがないとダメということで、幼稚園に行ける状態だがもうちょっと不安だからというようなお子さんであればお預かりするということだった。病後児保育になるということだったが、保護者が考えている病児保育とは違うと思うので、産科クリニックが新しくできるということであれ

ば、・・・。

(事務局)

おっしゃるとおり、佐原めぐみこども園で実施しているのは病後児保育であり、回復期にあるお子様を対象にしている。一方で、産科クリニックに合わせて検討しているのは病後児ではなく病児保育と聞いており、もう一步踏み込んだ形でまだ回復期に至っていない段階のお子様をお預かりすることも可能ということで検討していると聞いている。また、付帯サービスとして可能であれば所属の園まで迎えに行ったりすることも検討していると聞いているので、もう少し広い範囲で利用できるようなものと認識している。

(小林委員)

不適切な保育ということで様々な事件が発生している。特別支援学校でも他人事ではないが、本市でも私立に移管することによって保育の体制が大きく変革する時期と認識している。保育の質を確保するには研修等が必要と思うが、その辺りで施策として考えているものはあるか？

(事務局)

民営化などしていく中で市として研修は行っていないが、色々な事件が増えており保育に対する市民の注目も集まっている。公立、私立を問わず保育の質という点では研修が有効と考えているので、公立の保育所と民間の保育所の保育の質に大きく差が開かないよう、合同の研修も今後考えていきたい。

国でも不適切な保育については重大視しており、各保育施設においては今後、業務継続計画の策定が義務付けられる。この中では、適切な保育をしていくためにどのような行動をとっていくかというようなことが計画の内容に盛り込まれ、不適切な行動がないよう職員の教育等も含めて提示していくことになっているので、これについては全施設で対応できると考えている。国からも不適切な保育がないか調査が行われているところであり、過去に渡って不適切なものがなかったか、職員間で話し合ったりされていると聞いている。

(鈴木副会長)

我々も保育の現場でお子様方を預かっていく中で、行政からの調査やバスの置き去り事故に伴う現地調査などが今年度あった。また不適切保育が問題になっている中で、それに伴う調査もあった。保育協議会などでも児童虐待とか不適切保育をテーマに取り上げ研修を行っている。お子様方を預かっていく立場で絶対にあってはならないとの気持ちで保育にあたっていきたい。

(出井委員)

資料 3/13 ページ目、民間保育施設整備への支援事業のところだが、高齢者とお子様が一緒に過ごせるような施設は香取市に既にあるのか。なければ、虐待も色々な方の目が入ることで虐待から守れるとも言われている。介護の世界では虐待の芽を摘むには外部から色々な人を入れるのが大事で、老健の検査ではどれだけ外部の団体を入れてるか確認したりもする。

(事務局)

現時点で把握しているものはないが、各こども園や児童館などに設置されている、お母さんが相談に来る地域子育て支援センターで、地域の団体や高齢者の方との連携強化を図って行くことを検討している。あわせて、子育ての相談に付随して例えば貧困や介護といった問題を同時に抱えている方が子育て支援センターにいらっしゃった場合、適切に市の各々の支援窓口

へつないでいくというような取り組みを来年度から取り入れる方向。この中で高齢者の方と子どもたちの連携も進めていければと考えている。

(海寶委員)

放課後児童クラブが本校にも設置されていて児童の3割強が利用している。民間が運営しているということで柔軟なプログラムであり、サッカーや遊びなど、放課後のグラウンドに子どもたちの声が響いて自由に遊ぶ時間があるのはいい姿だなと思っている。本校はスクールバスでの通学が8割と残り2割が車による送迎で、通学路の整備が完了しておらず危険なため徒歩での通学は0となっている。そこで運動不足の傾向があり、肥満児が増えていて問題になっている。バスや車で帰る子どもたちは、家に帰って宿題をしてテレビを見てゲームをしてと家に籠ってしまうが、児童クラブの子どもたちはグラウンドでたっぷり遊ぶ時間がある。本当は全員に思いきり遊ばせたいとの思いがあるが中々難しいところがある。

(事務局)

各学校、放課後児童クラブは3割程度の利用希望ということで、今年度、待機児童0を目指して新設や拡張、改修などを行ってきたが、やってもやっても追いつかない位に利用希望が増えていると感じている。保護者の皆さんはお仕事をしないといけないとか、おじいさんやおばあさんも若くてまだまだ働けるとか、そういった環境もあるかと思うが、入所希望が増えてくる中で、国の基準いっぱいのところでお子様を受け入れている状況。今後もニーズの増加が予測される。適切な児童クラブの運営というところで、施設整備の面でも先を見ながらしていかなければいけない。いずれにしても待機なしで利用できるよう、体制づくりは今後も進めて参りたい。

(額川委員)

学童の整備の話が出たが、私も息子が利用させていただいており毎日楽しく通わせてもらっている。現在佐原児童クラブは200人ほどの児童がいるが、駐車場に使っている体育館はこの時期17時を過ぎると真っ暗になってしまう。体育館に行く道も狭くて車から児童が見えない状況。外灯が一つあるが歩行者を照らしていない。危険を感じるので、皆さん、ライトを持ったり工夫している。いつ事故が起きても不思議でない状況であり不安を皆感じているが、どこに言えばいいかわからないのでこの場で言わせていただいた。

(事務局)

道路も狭くて我々も危ないと感じている。今後、佐原グレイスこども園が設置され運営が始まると佐原幼稚園のところは廃止されるので、施設としては佐原幼稚園のところも4月から子育て支援課の管理になる。隣に給食センターの跡地があって担当課が管理しており、送迎時の駐車場としての利用も担当課と協議しているところで、委託をしている事業者と送迎も含めてより良い運営ができるよう考えていきたい。

(出井委員)

資料12/13 ページ目、子ども食堂の推進のところで、3団体が毎月1回程度開催ということだが、位置や年齢層、また、食事をしながら色々な悩み相談のきっかけの場になっているのかなど、教えていただきたい。

(事務局)

把握した3団体については今月の広報に開催概要を掲載したが、内2団体は新しくできた「みんなの賑わい交流拠点コンパス」で定期的に毎月第一土曜日と第三土曜日の開催なので、コンパスに行けば月2回は配給される。もう1団体は自分の事務所でその時その時ツイッターでお知らせして月1回程度と不定期になっている。1団体は18歳以上の方は1回300円の料金が発生するが、概ね無料で年齢等を制限することなく行った方は皆提供を受けられる。今、コロナで1団体は弁当や物資の配布となっておりその場での交流などは難しい状況だが、他の2団体は対面でお話をしたりしており、開催している団体も何か困っていることを会話から次につなげられるようにということを目的に開催しているので、そういう意味ではそういった場の提供になっているかと思う。

(出井委員)

ホッとして悩みを打ち明けやすい場と思うので、機会が多ければ多いほど良いかと思う。

(潮田委員)

これは要望ではないが、計画を策定したときに地域の方からアンケートを取ったと思う。香取市は子どもの遊び場が少ないとの声がとても多かったが、それに対応した計画であるかという視点で見たときに対応していない部分もあるのではないかと思っていた。今年度、各公園へ何十年かぶりに新しい遊具が入り、子どもたちも親御さんたちもとても喜んでいる。計画し実行していただいた部署や担当者にお伝え願いたい。

(事務局)

ありがとうございます。

(額川委員)

コンパスの話が出たが、開館されて高校生も学習室など多く利用されている。屋上も皆ホッとできるようなスペースがあって利用させてもらっている。図書の貸し出しも利用しやすくなった。ただ、いきいき広場については有料になり子ども一人に対して1時間100円ということなので、雨の日にちょっとお子さんを3人位つれて2～3時間遊ばせようとすればすぐ1000円位になってしまうということで、少し利用しづらいのかなと。現場の方に聞くと平日はほとんど利用がないとも聞く。また、年齢制限が小学2年生までということで、引き上げて欲しいとの要望が現場にも多く寄せられているとのこと。小学2年生までの利用制限に対し遊具の対象年齢は高い。3歳未満のお子様は入れず上限は小学2年生なので、兄弟で入れないので利用できないというのもある。せっかくの施設なのに利用できないのはもったいないという印象だ。現場からも市へ話をしているとのことだったが、難しいというような話だった。

(事務局)

確かに有料ということで利用しづらくなっているとの声も伺っている。運営を一括して事業者任せしているというののもあって料金については中々難しい部分もあるが、モニタリング会議で運営については関係各課が事業者と定期的に話し合う場を設けているので、今いただいている意見があることについてはしっかり伝え、改善が可能なのか伺って参りたい。

(額川委員)

とても素敵な施設で子どもも行くのを楽しみにしているので、よろしく願いたい。

《採決》

挙手可決（全会一致）

（２）保育所等の利用定員（案）について（香取市子ども・子育て支援事業計画中間年の見直しについて）
《事務局からの資料説明》

令和４年１０月開催の子ども・子育て会議で、教育・保育に係る量の見直しについて説明し承認いただいたところ。その際、確保方策については施設の再編統合や保育ニーズの変化に留意しつつ各保育事業者の意向を反映した上であらためて会議の議題にするとさせていただいた。量の確保という言葉と換えると各教育・保育施設の利用定員の合計ということになる。１月に各事業者の意向を確認し検討して今回の資料の取りまとめを行った。佐原、津宮幼稚園、香取、佐原保育所の廃止、佐原グレイスこども園の開園、各施設の利用状況等を勘案して定員を変更。量の確保についてはすべて不足しない設定としているので承認いただきたい。また、本日の会議を受けて、量の確保の変更を含めて子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しを県と協議する予定としており、県の下承を得た後、正式に計画の改定になると説明。

《質疑応答》

（鈴木副会長）

量の確保はできているとのことだが、全体的には利用定員が減っている。やはり児童数の減少が関わっているのか？

（事務局）

毎年残念ながら子どもの数が減っており、特に０歳児は３００人を下回る状況。各施設の利用定員もそれに合わせて検討した。

（出井委員）

確認だが、量の確保はできているということは待機児童０との理解でよいのか？

（事務局）

香取市はここ数年待機児童は０で推移している。

（鈴木副会長）

子どもも減少傾向にあるということで残念なところではあるが、先ほども色々意見が出たが子育ての家庭が身近なところで頼れるような体制づくりを市として進めていただきたい。

《採決》

挙手可決（全会一致）

4.その他

（事務局）

次回会議について

令和５年８月頃を予定。次期、子ども・子育て支援事業計画の策定スケジュールによって前後する可能性があることを説明。

5.閉会 以上